

私の教育実践

～ 出会い 学び 感謝 ～

内子町立 内子中学校 教諭 松本 宏



愛媛の土地を踏み、今年で 18 年目になります。私の故郷は、東部に広大な砂丘、北にカニを代表とする海の幸、中部に、時は 21 世紀、しかし、20 世紀梨、西部に、緑豊かで日本海を一望できる、伯耆富士こと大山があります。もう、お分かりでしょうが、日本で最も人口の少ない県、そして、島根とよく間違われる鳥取県です。

生まれ育った故郷を離れ、愛媛の子どもたちと、共に学び、共に成長していくことができているのは、多くの方との出会いがあったからだと思います。今回は、このような機会をいただけたので、出会いから、今の自分の教育実践につながっていることを述べさせていただきます。

【愛媛でのスタート】

私が、愛媛の教員になりたいと思ったきっかけは、西予市立明間小学校での、ある先生との出会いでした。その先生は、子どもたちに運動の楽しさを伝え、陸上水泳大会の練習では、子どものやる気を高め、学級では、温かい雰囲気を作られる、情熱ある方でした。ある日、「子どもに水泳を教えるときに、教えられる立場を経験することで、より分かりやすく指導できる。だから、一緒に水泳を習いに行こう。」と、声を掛けていただき、スイミングスクールに通うことになりました。教えてもらうのはとても新鮮で、改めて体の動かし方や、指導のポイントを学ぶことができました。

先生との出会いで、自ら学ぶ姿勢が大切であることを学びました。今では、実際に自分でやることや、子どもならどう考えるか、どこでつまずきそうかをしっかりと考えて、授業を組み立てることを意識しています。どんなに慣れた単元であっても、子どもの実態が違えば、アプローチの仕方も変わってきます。子どもの「分かった。できた。」の、幸せな言葉が溢れる授業を常に目指しています。

【教員採用試験からの学び】

私の採用までの道のりは長く、11 年かかりました。長い月日と言えば、「母を訪ねて三千里」という有名なアニメもありましたが、私の場合は、「初任者になれるまで 4000 日」かかりました。辛酸をなめ、たくさんの苦労をしましたが、今になって、諦めずに頑張っただけよかったと心から思います。

私には、西予市に第 2 の故郷があります。そこには、愛媛の教員を志す若者たちが集まり、共に学び、共に支え合いながら教員採用試験に臨んでいました。そこで、私たちを支えてくださった先生がいます。すでに退職されていましたが、愛媛の教育のためにと、温かく、時に厳しく指導して

いただきました。先生からは、失敗を恐れず自らアクションを起こすことと、互いに学び合う事の大切さを学びました。チャレンジする仲間を応援したり励ましたり、互いを認め合い、苦手をみんなで克服する経験は、今の学級経営に深く結び付いています。ここでの、先生や仲間との出会いが、私の学級経営の大きな柱の一つとなっています。

【背中から学ぶ】

新採4年目に中学校への異動となり、新たな出会いがありました。それは、保健体育科のパートナーとして組ませていただいた教頭先生です。体育の授業だけでなく、率先垂範を背中で学ばせていただきました。「環境が人を育てる。」と、という言葉がとても印象的で、常に学校の環境に目を配り、様々な変化に誰よりも早く気付き、自ら進んで動いておられました。私もその意志を継ぎ、学校の環境整備や、普段から子どもたちに指導している「大きな声で挨拶をする。」、「靴のかかとを揃える。」などを、生徒に言うだけでなく、自分が率先して行うことで、生徒にも説得力のある言葉掛けができ、互いに成長できています。

【これからの目標】

このように、様々な出会いで学んだことが、今の自分の軸となっています。「人との出会いを大切にすること。」、「自ら学ぶことを忘れてはいけない。」、「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、褒めてやらねば人は動かじ」、「言うばかりで、自分はやらない。うどん屋の釜にならない。」これら以外にも、これまでの出会いで、ここには書き切れないほど、たくさんの学びがありました。自らが学び、良いと思ったことを子どもたちに伝えていくことが、今後の私の使命だと思っています。

最後に、今後も「初心忘るべからず。」の言葉を抱き、第二の故郷、愛媛の子どもたちのために一生懸命頑張ります。

